

レジリエンスな社会の構築と 危機の克服

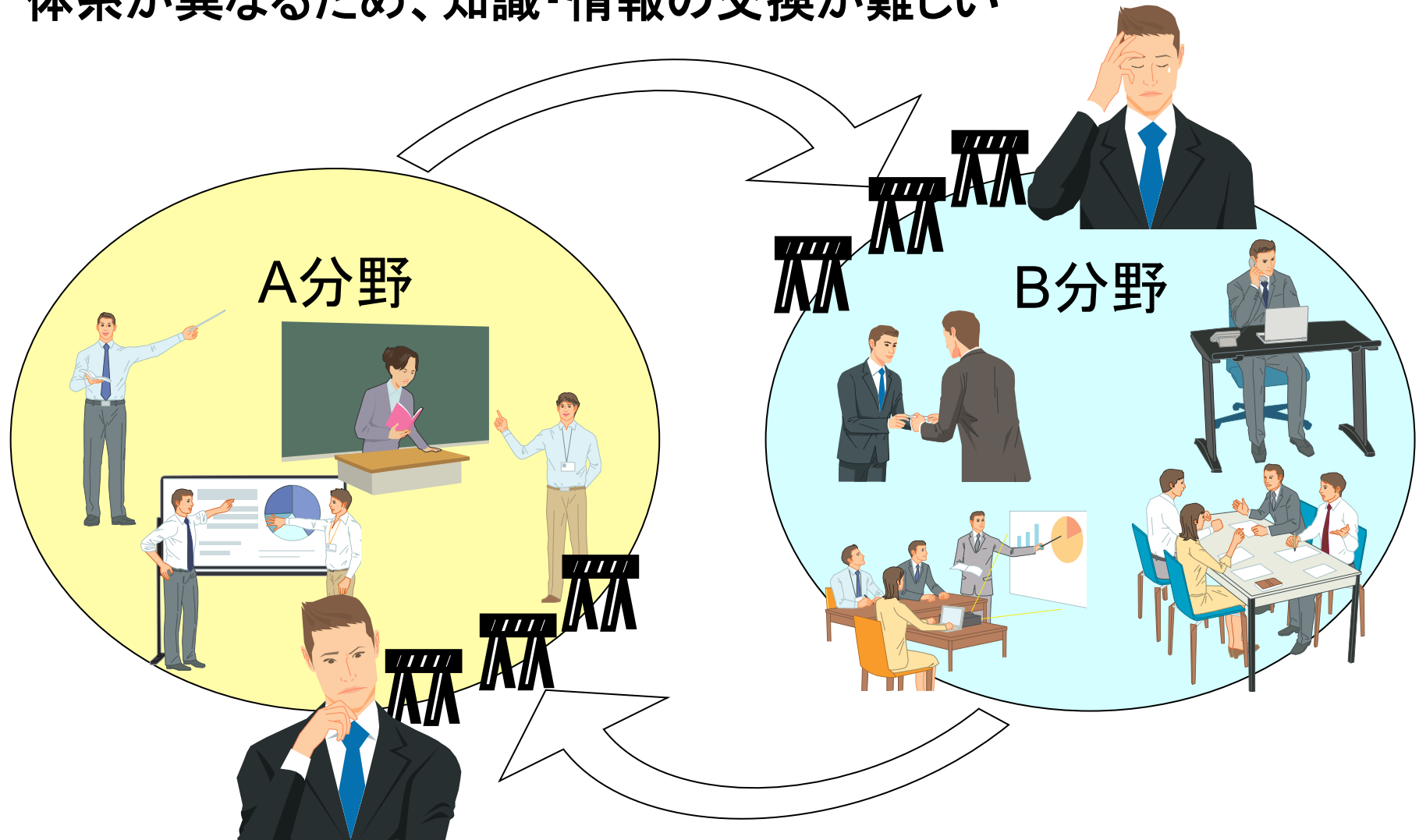
佐藤 順一

日本工学会会長

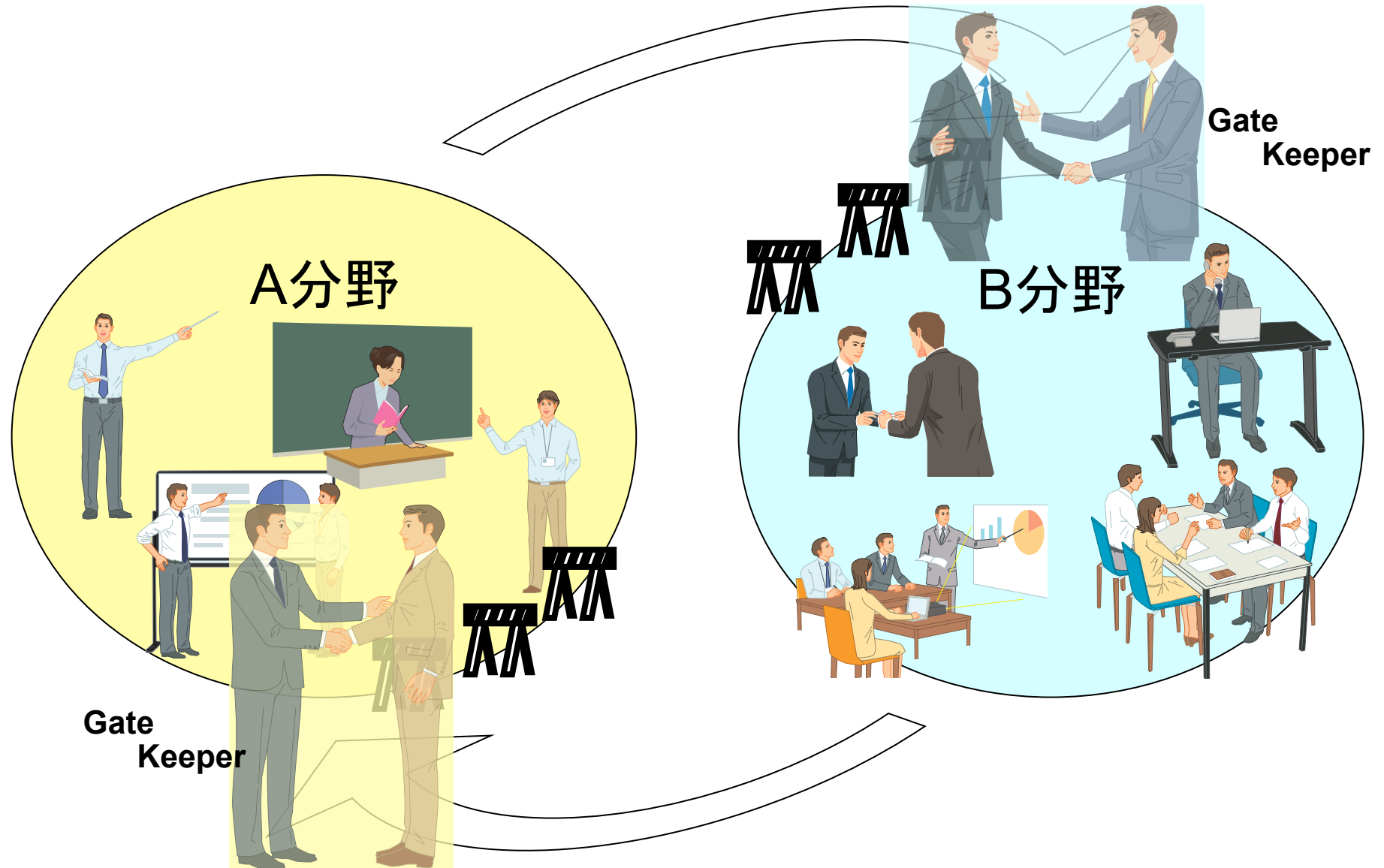
元日本機械学会会長(2011年度)

(株)IHI顧問

分野毎のコミュニティーがあり、それぞれの言語
体系が異なるため、知識・情報の交換が難しい



両分野を知っている人物 (Gate Keeper) が分野間の知識・情報交換に必要である



社会と科学・技術

市民

- ・技術の目利きをどうするのか
- ・新聞、雑誌、マスコミの技術に踊らされる
- ・言葉のうまい、えせ技術屋にごまかされやすい
- ・つきあいの悪い、話し下手な技術屋をどう見るか
- ・表面的な数値管理、管理のための管理に陥りやすい

科学・技術者

- ・市民としての自身の感覚と立場をどうするのか
- ・自分の技術経験からの発想に固執しやすい
- ・言葉のうまい、えせ市民代表にごまかされやすい
- ・自分の専門外の技術屋にごまかされやすい
- ・社会の管理指標をあまり信じない

レジリエンス科学・技術リーダーの役割

- 科学的観点、技術的観点、社会的観点から自分達の立ち位置を常に把握する。
- 科学・技術の原理に反した判断を行っていないか常に自問する。
- 第三者の目で、自分達の活動を見る。
- 自分達の実力を客観的に認識する。
- 達成すべき社会的価値を決め、それに対する科学・技術の方向を追求する。

レジリエンス科学・技術リーダーとして大切なこと

- ・現場・現物・現実を見る目をもつこと。
- ・現場の声をいつでも吸い上げられる環境をつくること。
- ・自由闊達な大人であること。
自由闊達に議論をするが、その言動に責任を持つとともに、他人を尊重し、いたわる気持ちをもつこと。
- ・仕事へのプロ意識、責任感を持つこと。
- ・社会人としての規律を守ること。

おわりに

20年ほど前、たまたま米国からの帰りの飛行機で隣り合わせた人が、3回の航空機事故から生還した話をしました。彼の教訓と私の経験から、下記が言えます。

- ・リスク管理と危機管理は異なる。
- ・危機に際して、立ち止まって、現場、現物、現実を落ち着いて見る勇気を持つ。
- ・最低限守るべきものを決める。
- ・科学・技術的原理を用いて最低限のことを達成する。
- ・知識・訓練はいざという時の考えと行動の基礎となる。